

単元名 きせつのことば4

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付くことができる。
 (2) 経験したことや想像したことから書くことを見付けることができる。
 (3) 言葉の働きに気付き、経験を文章に表そうとする。

標準的な展開例

02010219_001

【教材名】 冬がいっぱい (下 P. 76～P. 77)

【準備等】 冬発見カード

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 冬に関わる言葉を探し、発表する。 ★冬を感じる言葉を見付けよう。 ○「ゆき」を音読する。</p> <p>○教科書の挿絵や身の回りから、冬に関わる言葉を見付け発表する。</p> <p>○見付けた冬の言葉をまとめる。</p> <p>2 冬を感じたときの経験を文章に書き、感想を交流する。 ○「ゆき」を音読する。</p> <p>○冬を感じるものをカードに書き込む。</p> <p>○書いたものを読み合い、お互いのカードについての感想を交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音読させ、冬のイメージを広げさせるとともに、音やリズムも感じられるようにする。 音読後、音楽に合わせて歌わせてもよい。 生活科の学習との関連を図るとよい。 ウェビングを使うなど、言葉のイメージが広がるように工夫する。 これまでに、春、夏、秋で見付けた言葉から考えさせてもよい。 <p>【評】冬を感じる言葉を探して発表する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生き物、植物、食べ物などに分類させ、ノートにまとめさせておく。 <p>【評】冬の言葉探しの活動を通して、それぞれの言葉には冬を感じさせたり、表したりする働きがあることに気付く「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読を通して、前時に見付けた冬を思い出させる。 前時にまとめたものを参考に、自分が一番冬を感じるものを選ばせる。 教科書(P. 76)のカードの例を確認させ、絵と文でかかせる。 見付けたものを書くだけでなく、自分の感想や周りの人の反応などもカードに書かせる。 <p>【評】カード作りの活動を通して、自分の経験や体験から冬を感じるものを見付けて、絵と文で表現する「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じものについて書いた人を探したり、違うものを書いた人を探したりしながら交流させる。 同じものでも、人によって感じ方が違うことや、自分では見付けられなかった冬があることに気付かせたい。 書いたカードは、季節発見カードとして綴じて、四季の違いを感じられるようにする。

【 備 考 】